

第5回（仮称）学習文化交流施設基本計画検討委員会会議概要

【日時】平成22年1月26日（火） 14時00分～16時10分

【出席者】委員：10名

事務局：共動推進課長、市民共動班長、生涯学習課政策監、政策企画課長、
まちづくり推進室 3名

コンサルタント：2名

1 開会

委員長挨拶：これまでの意見をまとめていただいた【素案】が出たので、トータルにいろんなことを見る機会になるかと思うので、どうぞ活発なご意見をお願いしたい。

2 案件

(仮称)学習文化交流施設基本計画(素案)について

事務局にて資料1、資料2について説明

意見・質疑

・【A 計画の趣旨】について

(意見・質疑なし)

・【B 基本理念】について

委員：つどう、ふれあう、にぎわう、は要約すると活性化をキーワードにして考えたらいいかと思う。

・【C 複合施設の基本的な考え方】について

(意見・質疑なし)

・【D 構成施設毎の基本的な考え方】について

委員：基本方針がそれぞれあるが、建物の観点的なところを書くのか、それとも例えば市民センターは目的を書かれている。ソフト面を書くのであれば違ってくる。ここに何を書かれるつもりなのか。

事務局：施設の設備と狙いをまとめる欄として基本方針を設けたが、内容的にレベルがばらばらという指摘があり、この点については少し見直しをかけた。

委員：言葉の使い方でも「親しみやすく」などが何回も出ている。狙いもはっきりさせた方がよい。

自由とか親しみやすいとか開放というのは図書館には当たり前の話なのでよく分からない。また、「親しみを持ち愛着を」とあるのも同じようなことが何回も出ており、読んでいってしつこい感じがする。あと市民センターは建物というよりはどちらかという概念かと思う。

委員長：役割にも基本方針とかなりダブっていることがある。逆に基本方針は最初の概要的なことはやめて、むしろ箇条書きでわかりやすく説明された方がよろしいかと思う。

委員：基本的に図書館もホールも物を持って入れないが、ロッカーのスペースがどこにも無い。どちらも100レベルのロッカールームを作らなければならないが、廊下や交流施設にロッカーを置くのはかたちが良くなく、管理の検討段階では出来ないのではないかと。大きな面積は必要ないが、あらかじめ共有部分で想定しておいた方がよいのでは？

事務局：今後の管理運営計画の中で継続ということであえて書いてはいないが、利用される方が一時的に預けるロッカーについては共用部分で考えていきたいが、それ以外に利用される方が道

具的なものを置いておくという空間の両方の必要性を今後検討していく。

委員：交流スペースと展示ギャラリーをきっちり分けるよりは人が憩う場所に展示の機能を持たせ混在した方が良い。分かると常に展示しなければならず、運営が課題となる。

事務局：展示ギャラリーは交流スペースの中のオープンギャラリー的なかたちで考えている。

委員：書き方の問題かと思うが、この表現では最初から分かれているようなイメージ。考えているのであれば、わかるような記述の仕方をされればよろしいのでは。

委員：交流広場が人が集まるかどうかのキーポイント。物を買うとか飲んだり食べたり出来る場であればふらっと行っても他の人になんで来ているのか不審に思われない。常設のショップを導入しなくても時間制で内容を変えたりすれば良い。

委員：検索用 PC は何か？インターネットの端末は必ず管理の問題が出るので、ここまで書かなくてもいいのではないかと。図書館にインターネット端末を置くのであれば、ここに二重に置く必要はない。行政用のチラシやパンフレットなども図書館で十分に可能といえれば可能。

事務局：想定しているのは、インターネット検索ができる端末。現在、市民センターに規制を掛け設置しており、同じようなものを交流スペースに設置する想定。

委員：あまり具体的に書かないほうがいい。交流の場として多目的に利用できるように記述としたほうが良い。検索端末とか展示と書いてしまうとやらなければいけない。

委員長：この表記では何か収蔵しているものがあることにもなる。

事務局：現在、分散収蔵というかたちで、市民センターとか先人顕彰館に絵画とか屏風とか美術品を収蔵しているが、それを想定した展示ギャラリー。

委員：交流施設の中に所蔵し、常時置くのか？

事務局：そうです。

委員：絵画を置くとなると空調の問題が出てくる。普通の収蔵庫だとそういうことを考えている意味になり、棚とかの設備も全て違い専用の施設が必要。ちょっと小さい美術館的にやるということであれば、この辺はちゃんとした機能として書かなければ。今までの感じでは市民ギャラリー的なイメージで、市民がいろいろ持ち寄って、一時預かり的な収蔵庫だと思っていたが。

委員長：本格的な美術館的な収蔵庫を持ったギャラリーとするには、トータルの面積で難しいという判断かと。どういう性格のギャラリーにするか、どう収蔵するかを含めて少し整理しておく必要があると思う。これまでのこの委員会の流れとしては、本格的な収蔵ということではなく、市民の方が自由に使える展示ギャラリーというご意見が多かったように思うので、その方向でよろしいかと。

委員：賑わい創出は、やはり食べるとか聞くとか見るとか、いろんな人間の欲をある程度カバーする部分だと思う。交流スペースの中で簡単な音楽は想定できるか？県立図書館でやっているが、かなり要望が強いし、好評。考えられるのであれば、簡易的な音響機能とかステージとかイベント対応的なところを言葉で入れておけば。

委員長：市民の方が、ストリートライブとってはなんだが、ちょっとしたコンサートなどができる仕掛けがあればということですね？他の施設に対して音の問題などで迷惑が掛からないような配慮は必要かと思うが、賑わい創出という意味では必要なことだと思うので、当然それは

出てくるかと思う。

委員：いまの音楽の部分もすごくいい。やっぱり人は目的がないとそこに行かないと思う。学びたいとかそういうのを含めて、暇だからあそこに行けば何かあるから行ってみようかというのも目的だと思う。無理なことだが、そこにドトールがあれば一番人が集まると思う。自販機しかなければ、他の通りと一緒に。常設のものは考えていないということだが、少なくともいつでも開けるように食品衛生法に沿った物販ができる設備や機能は是非とも用意していただきたい。屋外の方も同様。

委員長：具体的な運営になるといろんなことが必要かと思うが、仮設的なそういう施設はむしろ可能だと思う。あとは誰がどういう形で運営していくかという問題で、行政だけではなく市民レベルとか商店街の協力を得てやっていくということになるかと思う。その辺はもう少し先の具体的なところでいって検討が必要になるかと思う。

・【E 複合施設の規模の整理、F 立地条件の整理】について (意見・質疑なし)

・【G 施設計画】について (意見・質疑なし)

・【H 管理運営】について (意見・質疑なし)

・【I 概算事業費】について (意見・質疑なし)

・【J 配慮事項】について (意見・質疑なし)

・【K 今後の事業の流れ】について

委員長：基本計画をふまえて基本設計、実施設計という流れでいくわけだが、これは大体の年度は想定されているか？敢えて書かなかったのか？

事務局：現在、市の次期総合計画を策定中で、その中で具体的な建設までのスケジュールを定めたく、現段階では年度を除いた事業の流れで示している。

委員長：これだけでは一般的な流れで、具体的な年度が入ってなければ見る側は実感出来ない。

事務局：現在、ちょうどこれから10年間の計画を作っている時期で、この施設がどういう位置づけになるかはこの基本計画の策定より少し後になる。実際には組合病院が移り解体されるのが22年度で、それ以降に用地を取得し着手することになる。完了が何年度になるかは、他の計画に合わせた中で決定していきたい。

・【L 基本計画の策定体制】について (意見・質疑なし)

・【A～L全体】について

委員：「K 今後の事業の流れ」は先ほどの説明ではスタート年度が分からないということだが、ある程度計画の中で使用するスパンを示すと分かり易くなる。例えば、設計とか工事にどれ位かけるのか。全体として何年のスパンが分からない。5年なのか10年なのかによって全然違う。

事務局：何年も、10年とかかけるというわけではないので、皆さんに失礼ですので、その辺は勘違いしないでいただきたい。早くて23年度から用地取得が始まり、それから年度をおいて取り掛かるという考えではなく、取得次第取り掛かる。

委員：「K 今後の事業の流れ」で管理運営計画・サービス計画の策定と基本設計・実施設計のところが並行しすぎている。ここは一緒にやらなければならないと思うので、実際にサービス計画には基本計画からフィードバックし、それをもとに基本設計を策定し、それを実施設計に活かさなければならないので、その辺に矢印を入れてもらえば、勝手にやるのではないということが市民の方にも分かり易くなる。

事務局：この部分重なっているのが、そういう意図があった。確かに、やり取りするような矢印があればいいと思う。

委員：実施設計と管理運営計画の策定は実際には一体となることが多い。かなり細かい部分でのやり取りが出てくるしかなり重要。一般的な流れを書くよりもそこをはっきり書いた方が安心できる。基本計画の書き方としては設計と管理運営計画はかなりリンクするというのを、しっかり謳ったほうが特色を持っていい。

委員長：それではここで、素案がまとまりましたので、各委員からこれまでの検討委員会も含めて、感想でも結構ですし、気が付いたことをお願いします。

委員：はじめは市外から人を呼べるような建物をつくるのかと思っていたが、市民のための施設ということに落ち着き、市民が集える施設になるようにもっともっと沢山の方たちから意見をいただいて欲しい。鹿角市で、こういう立派なものを作るのは、最後になるのではないかといるんな方に言われるので、本当に納得したものが出来るように皆さんの意見も取り入れて、いい物ができるといい。

委員：最初は本当にまとまるのか、ちょっと不安があったが、回を重ねて皆さんの意見をまとめて、本当に賑わいの中心になるような建物が見えてきた感じがする。本当にこの建物が活かされるかどうかは、これからも使い方とか運営でも検討していかなければならないが、賑わいの中心になるような本当に良い物ができるといい。

委員：基本は市民のための施設ということだが、鹿角は北東北の中心に位置しており、北東北の人間が集まることが非常に多い。観光協会の立場からすると、基本的には市民のための施設だが、国体、インカレがあった場合には、キャプテンミーティングなどで、必ず使わせていただくようなことが起きると思う。その時に参加者が「これはこの地域の施設だ」と感じる雰囲気ではいけない。すべての人に対して、ウエルカムという雰囲気が漂う施設になることを期待している。

委員：なにごとにも地元のためにやるのは、自分たちの子孫のためだと思って活動している。鹿角は昔は文化の増場で、いろんな誇るべき文化的なものがたくさんある。なかなかうまく継承されていないと常々感じており、ロケーション鹿角という文化的な活動をしている。この施設は巨額をかけて建設する訳で、ソフト面も充分に充実させ、かならず人が集まり賑わえるような施設にしたい。そのためにはいくらかでも協力させていただきたい。理念はただ書くだけでなく、実現させなければ意味がない。

委員：基本的に市民目線でよい施設であれば県外からきても良い施設であると思ってもらえる。市民がまず使いやすい、その使いやすさが県外からの人にもわかるレベルにしてほしい。交流施設がこの館の難しい面であり特色でもある。ここをソフト面でしっかり検討するのがこれからの課題。その他のところは機能がある程度明確になっており、その点ではこの基本計画はよく出来ている。よく検討されたと思うが、交流のところ全般にまだ少し弱い。実際にソフト部分を詰めていくときに、もう少し内容を明確にすれば良い施設になる。その部分について、これからも支援したいと思うし、皆さんもいろいろと考えていただければと思う。

- 委員：建物が出来てから、5年、10年たったときに建てて良かったと評価されるものになるかどうかの土台になる検討委員会と思い、その責任の重大さを感じていた。賑やかになっているかどうか、ちゃんと見なければならぬので、長生きしなければならぬ。
- 委員：文化ホールが欲しいという運動をやってきた芸術文化協会の会長をしているが、私的には要らないという立場をとってきた。町の人たちがどのように使うかやいろんな活動をしているかが問題であって、無ければ無いなりにいろんなことを頭を使って地域おこしとか、町が生き活きとしていける所がある。市民センターは新しい人が入っているようなイベントをしたり市でやっていたときよりも活性化しており、これを契機に市民が市民活動とはなんだろうかということを考えるきっかけになればいい。北東北を範囲にした「北の演劇祭」を康楽館でやっているが、それくらいの規模の意識も持ちそれに市民が参加していけばすごく自信にもなる。そういう拠点になればと。基本理念の「文化交流の杜」は大変いい言葉だが、名前負けしないことを考えなければいけない。
- 委員：1月6日の新聞で市長が「想定している文化施設は市外へ流出している若者の定住促進にもつながる。」との記事があった。文化施設が定住促進までは難しいが、いかに市長をはじめ鹿角市民のこの文化施設に対する願いが大きいのか読み取った。是非、期待に応えるように。これからは車の時代で、スムーズに車が入り出れることを大事にしたい。
- 委員：まだ若い人の意見が足りない感じがする。我々60、70代の計画より若い人の計画を優先していただきたい。これからの少子高齢化の中で、この施設が有効に使えることをこのあとの会議で詰めていただきたい。

委員長：委員長としてこの素案でどのように考えるかということで、私の感想を少し述べさせていただきたいと思う。

全体で4回という議論でソフトの議論が足りなかったかと思う。1つの6,000㎡ぐらいの施設として、どういう機能がどれだけの面積を持ってどうするかというのは、設計をしていく上では非常に重要なことで、基本設計を委託された業者はそれに基づいて設計を進めることになる。その中でこの基本設計の中からこの地域らしいコンセプトをどう読み取っていくかという作業に入っていくが、その時に他の地域に無いこの施設の特徴はなにかということ、なかなか難しいところではあるが、文化ホールあるいは図書館についても、鹿角方式というあたりの議論が出来なかった。これは、限られた時間の中でのこうした委員会形式で出てくる話ではなく、自由に意見を出すワークショップのような形で出していけないとなかなか出てこないかという印象を持っている。前回の委員会で、まちなかスキーというものをテレビで見て、非常に感動した話をしたが、このまちはそういうイベントを自分たちで作る企画力とか、それを運営していくエネルギーを持っているまちだと思う。これから必要なのは、そういう人たちのエネルギーとか組織をどういう風にこの施設の中に取り込んでいけるかということで、この施設がうまくいくかどうかが決まってくるという気がする。伝統的に言えば、山車の文化もある。祭りがあって、山車を作って、町内会でそれをまとめていくというすばらしい組織がある訳で、そういう組織がこういう施設をこれからしっかりと支えていくのだと思う。その辺のところ、私もこの委員会の中で見えてこなかった。いろんな分科会でそういう細かい議論はされているというお話は伺っているので、基本設計あるいは実施設計に入っていくにあたって、もう少し、具体的にそういうことが詰められていくのかということに期待しているところ。

建物は一番大事なのは維持していくことで、このことが大変な問題で、特に文化ホールは地域のお荷物になっている例がたくさんある。この委員会でも何度か議論になったが、利用する側がうまく運営していける、自分たちでイベントを作っていける、発表の場だけではなく練習

したり、あるいは準備したり、そういう場もこの中にきちんと盛り込んでいけることは、考える必要があるのではないかということがあったと思う。実は、その辺がとても大事で、そういうことが無いと、物だけが出来て、あとは行政だけでやらなくてはならないことが出てくるので、ボランティアという話も出たが、この計画を通してどういうボランティア的な組織を育てていくのかというのは、すべての施設について言えることだと思う。図書館、文化ホール、市民センター、全てにおいてそういうものを支えていく地域の組織というものをきちんとつかまえていくとか、これから設計にあたって、もう少し具体的な姿が見えて来るので、そういう方たちを、あまりあらたまった委員会形式ということではなく、もっと気軽なワークショップのような形で話を聞いてみると、意見を聞くことがそういう人材を育てていくことになるので、是非、そういうワークショップを完成までに開いていただきながら、完成した後の運営につなげていけるような組織に育てられると、施設としてはうまくいくかという印象を持った。この委員会は、短い時間で集まって、中々そこまで詰めることは出来なかったが、これから何年かかかって進めていくわけだが、その辺を念頭におきながら進めていくと、私は良い施設になると思う。その中で、何回も話題になった鹿角らしさとか、地域の人達がどうかかわっていくのかということも見えてくるのかという気がしている。

委員：最終回は組合病院の現地で将来の道路のことも含めて敷地を見ながら検討したい。図面をイメージできるような日程を組んでいただけたらと思う。

委員：パブリックコメントの実施方法は？

事務局：2月1日から3月2日までの30日間で、市役所の政策企画課、各支所とホームページで公開する。意見の提出は備え付けの用紙でファックス、郵送、持参とインターネットのメールによる。その後に最終の報告的な内容の会議を開催する予定。

委員：かなり日常の話題でも組合病院跡地という言葉が聞かれるようになったが、行政で説明会を開催する予定はないか？意見を直接言ってもらう場が何回かあったらと思う。

事務局：今回は説明会は考えていなかった。市役所の窓口やホームページで見えていただいて、多くの人から自由に意見をいただく方法としてパブリックコメントを実施する。基本設計の段階になれば皆さんからある段階で見えていただいて意見を伺う機会を作っていきたいと思っている。

委員：花輪ばかり、との声を結構耳にするので八幡平や十和田の方などの意見も反映させる形をとっていただければと思う。

事務局：全くそういった機会を設けないということではなく、これから段階を踏んでいく中で具体的な図面を示しながら意見をいただく機会を設けることができると思う。

3 その他

事務局にてパブリックコメント、次回検討委員会(3月中～下旬)の日程について説明。

4 閉会

16時10分閉会